

# 8月の衛研検査情報

～トピックス～

## 横浜市における2015/2016シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

**主な結果** 横浜市における2015/2016シーズンのインフルエンザの流行は、AH1pdm09ウイルスとビクトリア系統および山形系統のB型ウイルス、AH3型ウイルスの混合流行でした。病原体定点調査での分離・検出数の割合は、A型ウイルス（AH1pdm09：47.2%、AH3型：4.5%）とB型ウイルス（ビクトリア系統：26.7%、山形系統：21.6%）がそれぞれ半数を占めました。A型ではAH1pdm09ウイルスが主流であり、B型ではビクトリア系統のウイルスがわずかに優勢でした。

入院・重症例では、AH1pdm09ウイルスの割合が多く、また山形系統のB型ウイルスもみられました。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09ウイルスの耐性株が2例、山形系統のB型ウイルスで低感受性株が1例分離されました。このうちオセルタミビルとペラミビルに対し薬剤感受性の低下がみられたのは、未治療の患者から分離したAH1pdm09ウイルスのみで、地域流行はみられませんでした。

## シックハウス対策検査 ～粘土から放散される化学物質について～

近年、室内空气中に放散した化学物質で居住者等の体調不良を引き起こす「シックハウス症候群」に関する問題が多く報告されています。今回は粘土からの異臭発生事案に伴い、粘土から放散する揮発性有機化合物（VOC）類に関する調査を行いました。

**主な結果** 室内にて粘土を使用したときの室内空气中化学物質濃度を類推したところ、いずれも厚生労働省が定めた総揮発性有機化合物の暫定目標値を大幅に下回っていることから、粘土を使用した場合でも室内空气中化学物質濃度はあまり増加しないと推測されました。

## 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



**主な結果** 平成28年7月は、大麻（マリファナ）、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌（GBS）感染症に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は96,072件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。